13人の議員が一般質問

未来へつながるまちづくり

質問は6月13日、16日、20日の3日間で行われました。
（質問の順序は抽選で決められ、その順に各議員から提出された要約原稿のとおり掲載しています。）

問 府道生駒井手線 水取バイパスは

答 平成23年度内供用開始

喜多 進 議員（新栄会）

①天津神川の治水対策の進捗状況は。

建設部長 将来的な切り下げ改修も視野に入れる中で、早急な河川改修工事が望めないことから、危険箇所の補強、もしくは調整池などによる流出抑制対策調査費として予算計上を行った。

②防賀川と天津神川の交差部の改修と防賀川のしゅんせつの進捗状況は。

建設部長 交差部は管きょの補修をする必要性が確認され、工法を検討中。防賀川のしゅんせつについては、府民公募型公共事業にという方法で要望する。

③市道関屋新線の水路改修の進捗状況は。

建設部長 平成22年調査、検討を行い、23年度末までに工事を完了する。

④生駒井手線水取バイパスの進捗状況は。

建設部長 23年度から工事に着手し、23年度末をメドに未完成区間である直角のカーブから現道生駒井手線までのバイパス区間約700メートルを供用開始すると聞いている。

⑤南田辺三山木駅前線の開通見通しは。

建設部長 土地所有者2名の内1名の方との契約が整い、残る1名について鋭意交渉を行い、早期の全線供用開始を目指したい。

⑥山手幹線興戸地蔵谷～新畠間の街灯設置は。

安心まちづくり室長 昨年、興戸地区間を府民公募事業として応募したが、残念ながら実現せず、23年度もう一度、興戸地区、新地区間を府民公募型事業に応募し京都府に対し要望する。

⑦東日本大震災による中小企業対策は。

経済環境部長 経済復興対策京都官民合同会議で、アンケート調査された結果、43事業所の内24事業所が影響を受けていると回答があった。本市も、京田辺市商工会を通じて市内事業者へのアンケート調査を実施している。その結果に応じて対策を考えていきたい。

バイパス工事が行われる生駒井手線（水取地区）

問 備蓄の拡充と配置見直し

答 年次的に拡充・広域配置

増富 理津子 議員（共産党）

①災害のときの備蓄について、市は流通業者と協定を結び、食糧や日用品等を確保する考えで、近隣自治体と比べても備蓄の種類・量とも少ないものとなっている。避難場所に物があってこそ、災害時の自助・共助が生きてくる。また福祉施設の備蓄、要配慮者への情報伝達機器、哺乳瓶やミルク、おかゆや紙おむつ、医薬品など備蓄の拡充と配置場所の見直しを。

危機管理監 今後、年次的に一定数を確保し拡充、広域的な場所への対応を考えている。推定される避難者の約半分について1食分を備蓄。要配慮者への備蓄は、今後の検討課題となる。

②災害救助法による要援護者のための特別な配慮がなされた福祉避難所は、あらかじめ防災計画において場所を定めておく必要がある。福祉避難所の指定を早急に。

保健福祉部長 施設等の意向調査など状況把握を行い、既存施設の中で協力依頼を検討したい。

③小中学生の就学援助制度に、厚労省は昨年度から新たにクラブ活動費、生徒会費、PTA会費を加える見直しを決定したが、本市でも国の基準に基づく実施を。

教育部長 課題を整理し、見直し部分の実施について結論を出す。

④年度途中からの入所申し込みも多く、希望する保育所に入れない。また、待機はないと言われているが、定数を超えての詰め込みの状況。入所希望も踏まえ、生活実態に即した待機児を出さない保育施設の充実を。

保健福祉部長 全体数からみると対応は可能。地域の児童数の動向を踏まえて施設整備についても検討を進めたい。

⑤東住宅と西住宅をつなぐ近鉄の線路下地下道は大変危険である。通学路でもあり、安全対策を。

建設部長 道路改善等研究していきたい。

市役所に配備されている災害時用備蓄品

問 各校・園 保育所 避難訓練の強化を

答 訓練の強化を図る

南部 登志子 議員（無会派）

①東日本大震災の発生を受けて。㋐災害派遣やボランティア支援を行った職員の経験を集約し、本市での取り組みに生かす工夫を。㋑高齢者・障がいのある方の避難生活のあり方が改めて大きな課題となった。特に精神障がいのある方で共同生活が困難な場合、半壊した自宅等で避難生活を続ける方があるが、そこには支援物資等が届かない。そうしたケースも想定した上で、本市防災計画の見直しを。㋒災害発生時の消防団の働きの大きさが改めて認識された。消防団の加入強化に向けたさらなる取り組みを。㋓今回震災が発生した時間帯は昼間だった。親も子も、離れ離れで不安だったと思う。小中学校や幼稚園・保育所・学童保育での避難訓練の一層の強化を求めるとともに、保護者とりわけ就労のため地元におられない方々と連携した取り組みを。

危機管理監 ㋐京田辺市支援対策連絡会議で、今後対応すべき課題の一つとして位置づけ、現在情報の収集に努めている。

保健福祉部長 ㋑これまでの地域防災計画では想定していないこともあるので、さらに検討していく。㋓保育所では、災害発生の時間帯や場所等に応じた具体的なシミュレーションを行い、避難訓練の強化を図る。保護者との連携の取り方についても十分研究していく。

消防長 ㋒今回、消防団の果たす役割は非常に大きく重要なものであると改めて認識。市民の皆様には、自分たちのまちは自分たちで守るという意識を啓発し、今後も消防団員の確保に向けて自治会・区にはたらきかけるなど取り組みを行う。

教育部長 ㋓今回の大震災を受け、各校・幼稚園の状況に応じた避難訓練の見直しを指示した。教職員の役割や任務分担の確認徹底についても研修していきたい。

震災直後の南三陸町へ支援に入る消防本部職員

全国市議会議長会から表彰

去る6月15日に開催された全国市議会議長会第87回定期総会において、上田登議長が表彰されました。

授賞の理由は、4年以上市議会正副議長の職にある者というものです。同時に、全国市議会議長会監事として感謝状も授与されました。

また、井上薫前議員は25年以上議員の職にあった者として、井上公前議員は15年以上議員の職にあった者として表彰されました。